

「祈りの人になるには」

ローマ人への手紙 10 : 9 ~ 10

ヨハネの手紙第一 1 : 7 ~ 10

「祈りの人が主に用いられる」ことについて、私たちが学ぶとき自分も「祈りの人」にされたいという強い願いが起こされます。神様との会話、交わりが私たちに与えられるなら、霊的に成長することができます。それは、クリスチャンとは神と話す人だからです。しかしもし、クリスチャンになって時間が経っても、祈れないとするなら、少し立ち止まって、自分の祈りの生活を振り返る必要があります。

霊的に豊かに満たされ、神様から恵みを頂くために、今回は、祈りについて、具体的にどうすればよいか、みていきましょう。

今日の聖書の学びの要点

- ・ イエス様の十字架によって、罪赦された私たちは、みことばを神の約束の言葉として、口に出し、声を出して祈る時、自分が神様によって整えられます。そして、神様に祈りに応えて頂くことができます。

I、声に出して祈る

1、ローマ 10 : 10 を開いてみましょう。ここに信仰の第一歩はどこから始まるかについて書かれています。

① 口で告白したことを、主は聞いて下さる。

- ・ 心の中で、ただ思っているだけと、口に出して告白するのは同じではない。

② 口で告白したことによって、主が生活・生き方・考え方を変えて下さる。

③ イエスを主と告白するなら、必ずその人の人生にイエスは主となり導いてくださる。

2、次に、I ヨハネ 1 : 9 を開きましょう。クリスチャンであってもいつも罪の告白も声に出して、言う必要があります。

- ① 神様に願いを聞いて頂きたいなら、まず、神様と自分の間にある罪を解決しなくてはなりません。
- ② ご聖霊が声に出して祈る祈りのうちに働かれ、十字架の恵みを明らかにして下さる。

Ⅱ、みことばに基づいて祈る

1、みことばと祈りは表裏一体です。「祈り」には注意しなければならない事もあります。

- ① 単なる願い、御利益を求める祈りになっていないか、注意します。
- ② 祈るとき、みことばを読んで祈ると、自分が神の前に整えられていくことができます。
 - ・ 朝起きた時、まず聖書を読み、祈る… 1つでも、自分に語られるみことばをつかみ取りましょう。
 - ・ みことばを神の約束の言葉として祈る時、口に出す時に整えられ、主に従う心が与えられます。
- ③ 神様は、勝手な私たちの願いに応えて下さる方ではありません。しかし私たちが、神のみことばの土台に立って祈る時、働いてくださいます。

2、神様が主で、私たちは従う者です。

「祈り」の本当の目的は必要なものを与えることができる主なる神様と、自由に交わることができる霊の目が開かれることです。